第一、第三十一師團北緬甸防衛ノ爲ノ転進経緯

一、編成完結時ニ於ケル態勢

昭和十八年五月上旬第三十一師團ノ編成完結ス
当時ニ於ケル師團ノ完結態勢ハ隔地ニ分散シアリ即チ師團司令部及歩兵
第百三十八聯隊山砲兵第三十一聯隊及師團直轄諸隊ノ主力ハ盤谷ノ
周邊地区ニ歩兵第百三十四聯隊ハ尚遠ク西貢ニ在ルノ状況ニ在リ
馬來地区ニ歩兵第百五十八聯隊ヲ基幹トスル部隊ハ

二、師團ノ緬甸進駐

一、昭和十八年六月以降師團ハ北緬防衛ノ爲陸海空三方面ヨリ逐次
其ノ兵力ヲ広ク「チンドウイン」河以東及「イラワヂ」河以北(西)北緬地区ニ転進
セシムルニ決シ先ツ取リ敢エス馬來地区集結部隊ノ一部ヲ当初
「モコック」地区ニ配置シ中緬西正面ノ警戒ニ任ゼシムルト共ニ同年八月
以降該部隊ノ主力ヲ逐次鉄道輸送ニ依リ「キヌ」「ウントウ」間「ミートキーナ」沿線ニ集結スルト共ニ其ノ一部ヲ「ピンレブ」「ワヨンゴン」附近ニ配
置シ逐次「ゴンピー」山系並ニ該山系以西「チンドウイン」河畔ノ情報收集
並ニ警戒ニ任セシム

2、師團司令部ハ七月上旬盤谷ヨリ「ペグー」ニ前進ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3、磐谷周辺集結部隊ハ陸路及ビ海路ヨリ又逐次「ミートキーナ」沿線ニ向ヒ転進シ同年八月下旬歩兵第百三十八聯隊ヲ基幹トスル部隊ハ「インドウ」(カサー西方約五粁)地区ニ集結スルト共ニ師団ノ第十八師団ヨリ防衛交代ニ伴ヒ其ノ一部ヲ「ジュビー」山系ヲ越エ「シットワーク」地区ニ配置シ「ジュビー」山系及該山系以西「チンドウイン」河畔ノ情報收集並ニ警戒ニ任ゼシム

4、師団ノ直轄諸隊又雨期多大ノ困難及悪疫ニ克ク八月下旬梳ネ緬甸ニ転進シ引續キ「マンダレー」「シエボー」「ウントウ」間ニ集結ス

5、司令部ハ八月下旬「キヌ」ニ前進ス

6、西貢地区ニ在リシ歩兵第百三十四聯隊主力ハ陸路磐谷次テ同年十月其ノ主力ヲ「ウントウ」「シエボー」間ノ地区ニ逐次集結シ同年十一月下旬「バンモーク」地区ニ於テ全部隊ノ集結ヲ見タリ

三、当時ニ於ケル敵空軍及「インパール」正面ノ敵ノ動向

北緬地区ニ於ケル敵ノ空軍ハ逐次執拗活発トナリ特ニ主要都市交通機関就中列車運行ノ妨害ハ注目ヲ要スルモノアリ

戦斗機ニ依ル地上攻撃ニ依リ「ミートキーナ」線ノ昼間運行ハ大ナル危険ニ曝サルハ状態ナリ「チ」河畔「インパール」正面ノ敵ノ動向ハ一見平穏ヲ得シアルガ如キモ後方道路ノ整備並「チ」河々畔ノ警戒ハ尚役我ノ一線ノ劃シ巡察隊諜報網監視幕ハ相当ニ厳ナルモノアリテ注意ヲ要セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp